False positive and false negatives Wikipedia

False positive and false negatives

医療統計において、偽陽性と­偽陰性は統計的仮説検定における第一種過誤と第二種過誤の概念と類似しています。仮説検定では、一つの正の結果はその帰無仮説（何も関係ない、差異は見られない、仮説などそもそもなかったなどを意味する）の否定に対応し、一つの負の結果は、帰無仮説に対応している。正の結果と負の結果は頻繁に、互換可能性が用いられている。しかし、細かい解釈に違いがある。

False positive error

誤偽陽、要するに偽陽性は、日常的には“”False alarm“(間違い警告)と呼ばれている。False alarmは与えられた状態とは異なった存在を示す結果である。例えば、少年がオオカミで泣いている場合、「羊の群れの近くにオオカミはいますか？」という状態のテストをします。羊飼いは初め、「オオカミ、オオカミ！！」という声によって、そこにオオカミがいるという誤った認識をした。

偽陽性は、一つのシグナル状態を確認するテストで、誤って肯定的な（正の）決定を与える第一種過誤である。

False negative error

誤偽陰、要するに偽陰性は、実はその状態であるが、その状態ではないというテスト結果を示している。Erroneously no effect has been inferred. たとえば、本当は有罪の囚人が罪を無罪にされたとする。その囚人は有罪という状態を持っているが、テスト（裁判所の判決）はこの囚人の罪の理解に失敗した。そして、その状態について否定的な誤り、その囚人は有罪では無いという誤った決断をした。

偽陰性は、一つのシグナル状態を確認するテストで発生する、その状態ではないという誤ったテスト結果である、一つの第二種過誤である。